

触れて知る埴輪の世界

講座趣旨

「埴輪」とは、主に3世紀後半から6世紀にかけて、土を盛った墓である古墳の上に立て並べられた土製のオブジェです。埴輪は、単純な筒型の円筒埴輪と、人や家、武具、動物など様々なものを表現した形象埴輪からなり、まだ文字記録が少ない古墳時代の習俗や祭祀の具体的な姿を知る手がかりとなります。また、埴輪に残された製作者の痕跡や作り手の特徴から、生産体制や技術交流、ひいてはその背後にあった政治関係をも推測することができるのです。今回の講座では、埴輪の意味と現在の研究の焦点、さらには埴輪観察のポイントについて、館蔵資料を教材にして紹介します。さらに第2講と第4講では、栃木県米山東古墳群出土埴輪の洗浄と接合を体験し、生の埴輪の感触を実際に手にとって学びます。

受講をお薦めする方

古墳時代に興味があり、埴輪に実際に触れてみたい方。または考古資料に触れてみたい方。社会科教諭、社会人、初心者向け。

講座概要	
曜日	水曜日
時間	15:00～16:30
定員	20名
会場	博物館教室・博物館体験学習室
回数	5回
受講料	8,000円
教材	レジュメ資料・館蔵埴輪
ポイント	★
その他	水や土のついた埴輪を扱う回は、汚れてもよい服装でお越しください。

日程	内容	会場
1 4/ 7(水)	埴輪が作られた時代—古墳時代とは何か	教室
2 4/14(水)	埴輪の素顔に触れる—埴輪の洗浄体験	体験学習室
3 4/21(水)	円筒埴輪を解剖する—生々しい作り手の痕跡	教室
4 4/28(水)	形象埴輪の世界—表現された世界と接合体験	教室・体験学習室
5 5/12(水)	埴輪祭祀と王権—埴輪から政治関係を探る	教室



茨城県玉里舟塚古墳の埴輪
(レプリカ、明治大学博物館蔵)



埴輪に残された指の痕
(茨城県玉里舟塚古墳、明治大学博物館蔵)

講師紹介



くつ かいぞう
忽那 敬三 明治大学博物館学芸員

1975年静岡県生まれ。2000年に大阪大学大学院を修了、2004年まで岡山大学埋蔵文化財調査研究センターで縄文から近代の遺跡発掘にかかわり、以後現職(考古部門担当)。土器を棺に使う習俗や埴輪を研究。弥生・古墳時代を専門とする。玉里舟塚古墳出土埴輪をテーマとした2010年10月の特別展を目下準備中。